

戦没学生に平和誓う

樽商大の記念塔で慰霊祭

戦後75年の終戦の日を迎えた15日、小樽商大(緑3)

は構内の緑丘戦没者記念塔前で慰霊祭を行った。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため規模を縮小したが、遺族と同窓会「緑丘会」の会員ら約40人が参列。戦争で亡くなった学生や教員

347人を追悼した。

慰霊祭は1969年の記念塔建立以来、毎年開催されており、今年で52回目。

昨年は70人近く参列したが、今回は一般参列者の参加を制限し、校歌はCDで放送した。参列者は正午のサイレンに合わせて黙とう



をささげ、戦没者の名前が刻まれた慰霊碑に献花し手を合わせた。

同大の穴沢真学長は「戦争の記憶が薄れる中、世界の平和に貢献する人材の育成に力を注ぐことを誓う」とあいさつ。緑丘会札幌支部の山田二郎支部長は「戦争の悲惨さと平和への願いを、さまざまに思想を乗り越えて後世に伝えることが今を生きている私たちの使命だ」と述べた。

また、小樽市が例年、市民センター「マリソール」で開催している戦没者追悼式も大幅に縮小され、同センター会議室で行われた。

市戦没者連合遺族会の代表者や迫俊哉市長、鈴木喜明市議会議長ら9人が参列し、戦没者の冥福を祈った。

(宮本夕梨華)

緑丘戦没者記念塔内の慰霊碑に花を供える参列者